持続可能な社会の構築をめざしてクリティカルシンキングを育成する，新科目「社会科学入門」の実践

下前　弘司

本研究は，持続可能な発展のための教育（ＥＳＤ）の視点に立った社会科の学習指導の考察および，新科目「社会科学入門」における実践報告である。ＥＳＤの視点に立った学習指導を考察し，それを高等学校の授業に適用してカリキュラム・内容編成を行った「社会科学入門」という新科目と，その授業実践を示し，この取り組みがもつ特徴を明らかにするとともに，従来の取り組みとの相違点を示す。また，「交渉」を中心にした授業のあり方について提案する。

１．はじめに

広島大学附属福山中・高等学校では，文部科学省研究開発学校指定のもと，平成24年度から，「持続可能な社会の構築をめざしてクリティカルシンキングを育成する，新教科『現代への視座』を柱にしたすべての教科で取り組む中等教育教育課程の研究開発」という研究開発課題に取り組んでいる[1)]。高等学校１年では，「社会科学入門」という科目を創設し我々の消費生活の基盤となっている「科学技術の発達，消費社会，福祉社会」などをテーマに，持続可能な社会を構築するために必要な能力の育成を図っている。

国立教育政策研究所は，持続可能な発展のための教育（以下，ＥＳＤ）の視点に立った学習指導を進める上での留意事項として，以下のように述べている。

「*ＥＳＤの視点に立った学習指導を進める上では，教材（学習課題，学習内容）を内容的・空間的・時間的につなげること，学習者同士，学習者と他の立場・世代の人々，学習者と地域・社会などをつなげること，身につけた能力・態度を具体的な行動に移し，実践につなげることが大切です。*

そして，具体的な課題の発見・探求・解決の過程で，児童生徒自らが持続可能な社会づくりに関する価値観を身に付け，自らの意志を決定し，行動を変革していくことができるよう配慮することが大切です。[2)]」

現在，このような視点に立ち様々な学校でＥＳＤの取り組みがなされているが，学習課題，学習内容の工夫以外の部分で困難を感じている教師が多いように思われる。そこで，本稿では上記の留意事項をふまえ，生徒同士で話し合う活動をさせる授業のポイント，ひいてはＥＳＤの視点に立った学習指導をより行いやすくするための考え方について考察・整理し，研究開発の実践報告を行う。また，当校で取り組んできた「クリティカルシンキングを育成する中等教育 教育課程の開発」[3)]および市民的資質育成に関する研究をふまえた考察を行う。

２．ＥＳＤの視点に立った学習指導の考察

ここでは，前章で紹介した留意事項を分析する。

まず，「教材（学習課題，学習内容）を内容的・空間的・時間的につなげること」については，教材の通時性・共時性を意識することがポイントとなろう。通時性は，ある事象の歴史的な変化を検証することにつながるので，「教材を時間的につなげること」になる。そして共時性は，同一時における変化や差異に着目することになるので，例えばある事象に関して各地域でどのような差異があるのかというように「教材を空間的につなげること」になる。「教材を内容的につなげること」は，既習事項を用いて新たな課題を探求させたり，教科間連携を図ったりといった方法がある。

現在，生徒自身に話し合いをさせる授業が重視され，「学習者同士をつなげること」が進められているが，ここでのポイントは，話し合いを通じて生徒自身に変容が起きることであろう。話し合いは既存の知識に基づいて行われ，その知識を生徒同士が共有しつつ進められるものである。よって，まず話し合いに必要な知識を十分に獲得させておく必要がある。また，自分の身の回りにある様々な環境，そしてその変化に着目するよう，事前に指導しておく必要があろう。それは，「具体的な課題の発見・探求・解決の過程で，児童生徒自らが持続可能な社会づくりに関する価値観を身に付け，自らの意志を決定し，行動を変革していくこと」を可能にするために必要な現実感を養うことになると考えるからである。

「学習者と他の立場の人・世代の人々，学習者と地域・社会などをつなげること」を実践に取り入れるためには，価値観の相違を扱うのがよい。それは，望ましい社会についての見解は人によって異なり，社会はそのような個人の集合によって形成されるのだから，持続可能な社会を構築することを考えるためには，個々人が互いに

意見を交わしあい，妥協点を探らざるを得ないからである。また，様々な立場・価値観を批判的に検証することもこれに関係する。

次に，「具体的な課題の発見・探求・解決の過程で，児童生徒自らが持続可能な社会づくりに関する価値観を身に付け，自らの意志を決定し，行動を変革していくことができるよう配慮すること」だが，前半のポイントは，教材が現在および将来の社会問題に関するものにするのがよいということである。ただし，課題の発見・探求・解決のプロセスを生徒自身にたどらせるためには，過去の事例をモデルケースとして学ばせることが有効であると考える。社会問題に関する過去の事例は事実や評価が比較的定まっており，現在との比較によって現在の社会問題が抱える背景などを浮き彫りにしやすい効果があるからである。後半のポイントは，いわば生徒の思考や行動に変容が見られるようにし，主体的な活動の動機付けを行う必要があるということである。

以上のポイントを整理すると，次のようになる。

＜教材に関するポイント＞

①通時性・共時性を意識すること

②価値観の相違を扱えるように工夫すること

③現在および将来の社会問題に関するものを扱うこと

＜授業を行うための手だてに関するポイント＞

①話し合いを充実させるために必要な現実感，現実に発生している変化に関する生徒の意識を高めること

②批判的な思考（クリティカルシンキング）を十分に取り入れること

③生徒の思考や行動に変容が起こるようにすること

このようなポイントをふまえ，当校では高等学校１年次において「社会科学入門」という科目を新設し，授業開発やカリキュラムの検討などを進めている。これについては本稿第４章・第５章で詳述する。

３．「社会科学入門」と市民的資質育成を目指す社会科授業との関係について

市民的資質の中核をなすものは，合理的意志決定力である[4]とされ，社会科授業は批判的思考(クリティカルシンキング)を重視して展開させ，社会問題に対する合理的意志決定力育成を目指すべきであるとされている。

合理的意志決定力育成を重視した授業に関する代表的な先行研究としては，小原友行による意志決定型授業[5]があるが，批判的思考力育成および社会認識形成という点では課題があると考えられている[6]。このような課題を克服するため，社会問題を批判的に扱う様々な授業が開発されており，これらの授業は一般的に，学習過程における価値判断を明確にするトゥールミン・モデルを用いた分析過程と対立意見の調整過程にもとづいて授業が組織されており，問題が現実のどのような具体的な社会事象として現れているのかを確認し，自らの問題解決の具体を根拠付け，議論を行うものである[7]。

これに対し，本稿で提案する授業は，授業の中で社会問題の分析を行い，いわゆる論争問題のようなかたちで生徒に思考・議論させるようなものではなく，当校が行ってきたクリティカルシンキングに基づく研究開発をふまえ，「適切な基準や根拠に基づき，論理的で偏りのない思考」を行い，「よりよい解決に向けて複眼的に思考し，より深く考えること」に主眼を置いた[8]，「交渉」を中核とする授業である。「適切な基準や根拠に基づき，論理的で偏りのない思考」は，合理的意志決定の根幹を成すものであり，市民的資質を育成することになる。しかし，社会問題を扱うのなら，その解決にむけた思考が欠かせず思考の複眼性が必要となる。そこで，今回提案する授業は，この解決に向けた思考および思考の複眼性に重点を置き，思考の複眼性を「つながり」を意識した思考というものに置き換えて構成した。この「つながり」が，具体的かつ現実的に社会問題を捉え，よりよい解決策を考えるために必要な能力の育成につながり，市民的資質育成に大きく寄与するものとなると考えている。

４．ＥＳＤの視点に立った学習指導の実践

（１）「社会科学入門」の考え方

「社会科学入門」では，第二次世界大戦後の日本経済史をさまざまな経済理論を用いて分析することを通じて，いままで諸々の課題をいかに克服してきたかを理解し，そこで得た知を用いて現代の社会問題を考える，新しい年間指導計画を作成している[9]。

持続可能性を考えるために欠かせない内容は，現実に起こっている様々な社会問題などの事例である。「社会科学入門」では，できるだけ社会問題を扱うようにしている。社会問題を扱うことで，現実感や現実に発生している変化に気づく能力を育成することにつながる。また，社会問題についてクリティカルに思考し，その本質を見抜くためには，考えるためのモデルや明確な根拠が必要となる。「社会科学入門」で，第二次世界大戦後の日本経済史に着目したのは，そのようなモデルや根拠を過去の事例に求めようと考えたからである。過去に学ぶことで，現在というものがもつ特質を浮き彫りにし，このことで様々な事象が持つ背景を意識しながらより客観的に思考することもできる。これは教材に関するポイントで指摘した，通時性を意識することになる。また，過去の事例にある時代背景と現在のそれとを比較することで，価値観の相違を間接的に学ぶことにもなる。

（2）「3つのつながり」の実践について

当校の研究開発においては，国立教育政策研究所が提唱する，「教科とのつながり」「人とのつながり」「能力・態度とのつながり」という「3つのつながり」を生徒自身に体得させる実践を行っている。

「社会科学入門」では，経済学などの社会諸科学の見方・考え方を応用・活用して現代の社会問題を読み解いていく学習に主眼を置いており，その中で，過去の事例と現在の事例を比較検討し過去に学び現代を考えることへの着眼については前節で述べた通りである。この過去と現在とのつながり，そして教科間のつながりを「教科とのつながり」と捉え，様々な知を有機的に結合させ思考させられるような授業開発を進めている。

また，「人とのつながり」を業種のつながり，制度とのつながりといったものにも広げて考え，自分をとりまく社会的な環境をふまえて具体的に思考させられるような取り組みを行い，実際に起こりうる社会問題を想定してその解決策を議論する授業開発を進めている。

本稿で提案するのは，「実際にオイルショックが起こったら？」をテーマにした授業開発である。現実に起こりうる問題を思考実験のような形で探求していくことは，既習の内容や他教科の内容を自然と活用することにつながり，「教材とのつながり」をより明確に意識させることができた。また，具体的な問題を解決する方法を考えるにあたっては，人のつながり，業種のつながり，制度とのつながりなど様々なつながりを考える必要があるため，「人とのつながり」を意識づけることにつながった。さらに，様々な考え方を結びつけることで，問題を解決することができるという希望を生徒は見出し，より深く探求しようとする態度を育てることになった。このように，現実を批判的に思考しながら，現実の問題に主体的に取り組む「能力・態度とのつながり」を育成しやすい授業を開発することも進めている。

5．生徒同士で交渉をさせる授業について

「つながり」を重視し，かつ合理的意志決定力育成にかなう授業の手だてとして有効なのは，交渉（negotiation）であると考えている。

民主制の根幹は議論（discussion,argument）であり，それは多様な価値観を持つ人々から構成される社会において発生する対立を解消するアプローチの一つである。このことを社会科の方法原理として考察し，トゥールミン図式を利用する有用さや，議論によって社会を捉えることの有用さが提唱されている[10]。

しかし，ここで重要なのは，議論と交渉の違いである。交渉は，討議によって相手と合意に至ることであり，お互いに利益が得られる“win - win”の関係が求められ，相手と闘うのではなく，共同で問題解決を目指すという特徴があり，これは議論よりも明確に意識される[11]。この交渉に含まれる要素が，「つながり」をより意識させ，かつ合理的意志決定につながるものであると考える。

また，交渉には，推論と決断が欠かせない。推論と決断には，それを実行する者が，①決断が求められている状況についての知識，②さまざまな行動（反応）オプションについての知識，③各オプションの短期的および長期的帰結（結果）についての知識を持っていなければならない[12]。すなわち，議論・交渉を生徒に行わせる前に，それに関連する十分な知識を習得させる，あるいは議論・交渉のテーマが生徒にとってイメージしやすく考えやすいものであるかどうかの確認が必要となる。

本稿第6章で提案する「実際にオイルショックが起こったら？」は，十分な知識の習得を前提としており[13]，かつ，生徒にとってイメージしやすい内容であることをふまえて作成した授業である。次章には，授業案に加えて，授業中に教師がどのような働きかけをしたのかについての記録も掲載した。

6．「つながり」を重視した授業展開過程（探究活動）の実際

単　元：石油危機と産業構造の転換

小単元：オイルショックが起こったら？～オイルショックから派生する問題の解決策を考える～（全2時間）

○ 第1時の授業展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	「つながり」など
導　入 （2分）	・オイルショックが起こったと仮定して，どのような対処・解決方法があるかをグループごとに考える授業であることを認識させる。	・具体的かつ現実的に議論・思考を進めるよう注意する。 ・教科書や資料集など参考にできるものは何でも用いてよいことを伝える。	
展開1 （15分）	・くじ引きで，農業，機械工業（中小企業），機械工業（大企業），軽工業，重工業，政府・日銀，小売業，交通・運輸・通信の8グループに分ける。	・自分のグループの産業を衰退させず，存続，発展させられるような方策を考えるよう，思考を促す。 ・自分が担当する産業を具体的にイメージし	・人とのつながり ・批判的な思考 ・社会問題を考える ・現実感

	・各グループで，オイルショックが発生すると具体的にどのような問題が発生するかを考えさせる。	やすくなるようにサポートを行う。 ・「どうにかしなければ」という切迫感が出るように，思考を深めさせる。	
展開２ (30分)	・経済の視点に基づいて，それぞれの与えられた立場でどのような改善策が示せるか考え，協議させる。	・現実的であればどのような方法を考えてもよいことを伝え，多様な発想が出てくるようにする。 ・ここでは交渉を促したりせず，議論・協議のあり方については生徒に任せる。 ・思考が進まない生徒にはヒントを与える。	・教科とのつながり ・人とのつながり ・能力・態度とのつながり ・批判的な思考 ・価値観の相違
終　結 （３分）	・協議のポイントとなった点を整理させ，次回の授業に備えさせる。	・授業時間外でも解決策の探求や協議をするように促す。	

○ 第２時の授業展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	「つながり」など
導　入 （２分）	・本時において行う活動を確認する。 ・前時を振り返り，話し合い活動のポイントを整理させる。	・具体的かつ現実的に議論・思考を進めるよう注意する。 ・前時の優れた例を示し，議論・思考を促す。	・教科とのつながり ・人とのつながり
展開１ (30分)	・グループで議論をさせ，解決策を具体的に考えさせる。 ・グループ間で交渉を行うように誘導し，協同的な解決策を考えさせ，国内産業の衰退を食い止めつつオイルショックに対応できるような方法を考え，議論を進めさせる。 ・各グループの動向を適宜把握させつつ，交渉や議論を促す。	・議論が停滞しているグループには，思考を進めたり具体的なイメージを広げるヒントを与える。 ・グループ間交渉を促し，自グループ内で議論が停滞し解決策を見出しにくい状態から，より現実的で希望を見出せるような議論ができるように促す。 ・教師は適宜，交渉の進行状況についての報告をする。	・教科とのつながり ・人とのつながり ・能力・態度とのつながり ・批判的な思考 ・共時性の意識 ・価値観の相違 ・社会問題を考える ・行動，思考の変容
展開２ （８分）	・これまでの交渉，協議をふまえて，自分が担当したグループ（産業）がもっている特徴を考えさせる。 ・各グループにおける交渉，協議を整理させ，解決策提案の準備をさせる。	・他のグループとの比較という視点を与えて自分が担当したグループの特徴を考えやすくする。 ・要点を整理して，短時間で充実した内容の発表ができるようにサポートを行う。	・教科とのつながり ・能力・態度とのつながり ・クリティカルシンキング
展開３ （８分）	・各グループそれぞれで，交渉や議論を総括させ，解決策を発表させる。 ・解決策を考えるときの困難さ，問題点なども含めて簡潔に発表させる。	・発表内容，交渉や協議の様子など，どういった点が優れていたのかを指摘する。 ・交渉や協議が進まなかった点を明確にし，どうすればよいかを考える動機付けとする。	・教科とのつながり ・人とのつながり ・能力・態度とのつながり
終　結 （２分）	・論点や問題点を整理し，1970年代当時の状況を考え，具体的に現在とどのような違いがあるのかについて考えるポイントを意識づける。	・時代背景の違い，技術レベルの差，市民の意識の差，既習の知識に関する事柄を簡単に示し，考えるポイントを明確にする。	・教科とのつながり

○ 第２時の授業で行った働きかけ

分	実践した学習活動	主な発話
4	積極的に動けないでいるグループに対する働きかけ	リストラや海外への生産拠点移動のような方法以外に手はないのかな？
7	議論を交渉に転換する	グループ単独で対策を考えると，ネガティブな話になりやすいみたいですね。他のグループと交渉しながら解決策を考えてみては？
10	特筆すべき動きをニュース速報のようなかたちで全体に報告	エコプラスチックの開発・生産を考えてグループ間で交渉が進んでいます。
12	特筆すべき動きをニュース速報のようなかたちで全体に報告	政府へ補助金を出してもらうよう陳情に行っているチームがありますよ。
16	積極的に動けないでいるグループに対する働きかけ	小売業は売る商品がないとどうにもならないから，受け身になりがちですね。だけど，自分たちから積極的に生産者側に交渉できることがあるんじゃないか？
20	特筆すべき動きをニュース速報のようなかたちで全体に報告	ほとんどのグループが，補助金や減税の陳情のため，政府グループに殺到しています。これに対して，政府グループはどう対応するのでしょうか？
22	積極的に動けないでいるグループに対する働きかけ	政府・日銀グループの皆さん，みんなお金の要求ばかりしてきますね。何か対策はないだろうか？

24	出てきたアイデアに対する疑問の提示	政府は増税か赤字国債発行を考えざるを得ないというんだね。本当に他に方法はないだろうか？
28	特筆すべき動きをニュース速報のようなかたちで全体に報告	リストラにあって職を失った人を農業で引き受けてはどうかという案が出ていますよ。
30	議論を促すアドバイス	輸送コストを強く意識しているんだね。だったら，交通・運輸グループや小売グループ，原料を生産する農業グループ等と交渉できないかな？
33	特筆すべき動きをニュース速報のようなかたちで全体に報告	エコトレイや電気自動車の普及で各グループの協力体制が強まっています。これらをジャパンブランドとして政府に認定してもらう動きまで出てきています。

7．まとめ　～生徒の様子とその評価～

(1)授業中の生徒の様子と評価

解決策検討を始めたころは，まずオイルショックによって想定される個別的な問題を列挙していた。問題を列挙する中で，その問題の多さから「重工業は海外にインフラごと逃亡してしまえばいい」といったように，自分が想定した企業の利益を追求するにとどまり，日本の産業自体を衰退させてしまうような，ある種ネガティブな方策を立てる傾向があった。しかし，他チームとの「つながり」を意識し，協働的な視点から解決の糸口を探ることで，主体的に学ぶことが可能となった。また，他チームに交渉するというステップを取り入れたことから，自然に自分のチームの提案についてその妥当性や実現可能性について多面的・多角的に捉え思考しながら，与えられた立場で最善の解決策，提案を考えていくようになった。そして，各グループの立場を共有することで，与えられた自分の立場を相手に理解してもらうとともに，他者の立場と自分の立場との関係を理解しながら，与えられた条件の中での最善の解を見出すために，教室全体で語り合うようになった。

生徒が作成したメモ（資料１～３）を見ると，既習事項をうまく活用しながら，現実的な可能性を探るところまで思考が進んでいることが分かり，また，各チームとの連携を志向していることも見て取れる。

資料１，２には，まさに「教科とのつながり」が，資料３には「人とのつながり」が現れている。さらに，資料１，２には自ら条件設定をしつつ思考している部分も見受けられる。これは，クリティカルシンキングに基づく思考が行われていることを意味しており，今までの研究開発の成果が現れている一例だと考えている。

(2)今後の課題

今後は，本考察を深めてＥＳＤと市民的資質育成との関係を明らかにするとともに，交渉を中核に据えた新しい議論型授業の提案およびその論究を進めていきたい。

【註】

1）この研究成果は，次などに示されている。
・『広島大学附属福山中・高等学校　中等教育研究紀要』第 53 巻,2013 年

2）国立教育政策研究所　教育課程研究センター「持続可能な発展のための教育（ＥＳＤ）を学校教育でどう進めるか？！　ＥＳＤの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」より抜粋。

3）この研究成果は，次などに示されている。
・『広島大学附属福山中・高等学校　中等教育研究紀要』第 51 巻,2011 年

4）日本社会科教育学会編『社会科教育事典』ぎょうせい,2000 年,p.68

5）これについては，次などに示されている。
・小原友行「意志決定力を育成する歴史授業構成－「人物学習」改善の視点を中心に－」『史学研究』第 177 号,1987 年
・小原友行「社会科における意志決定」社会認識教育学会編『社会科教育学ハンドブック』明治図書,1994 年

6）この点は，次の論文において指摘されている。
・土肥大次郎「社会的論争の批判的研究としての授業－公民科政治・経済小単元「少年法改正」の場合－」『広島大学附属福山中・高等学校　中等教育研究紀要』第 52 巻,2012 年

7）この点については，次の論考がある。
・峯明秀「社会科における意志決定」社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』明治図書,2012 年

8）このようなクリティカルシンキングの考え方，およびそれに基づく授業開発の詳細については，次のものなどを参照願う。
・『広島大学附属福山中・高等学校　中等教育研究紀要』第 51 巻,2011 年

9）「社会科学入門」の年間指導計画は，次などを参照願う。
・広島大学附属福山中・高等学校「文部科学省研究開発学校 研究開発実施報告 中間まとめ 平成 25 年度（延

長第２年次 持続可能な社会の構築をめざしてクリティカルシンキングを育成する，新教科「現代への視座」を柱にしたすべての教科で取り組む中等教育教育課程の研究開発」2013 年 11 月

10）これについては，次の論考がある。

・田口紘子「社会科における議論」社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』明治図書,2012 年

11）交渉の特徴については，次を参照した。

・ベイザーマン『交渉の認知心理学』白桃書房,1997 年

12）推論と決断については，次を参照した。

・アントニオ・R・ダマシオ『デカルトの誤り』ちくま学芸文庫,2010 年

13）事前にどのような知識を身につけているかについては，註９に挙げた資料を参照願う。

【参考文献】（註に挙げたもの以外）

・鈴木健ほか編『クリティカル・シンキングと教育　日本の教育を　再構築する』世界思想社,2006 年

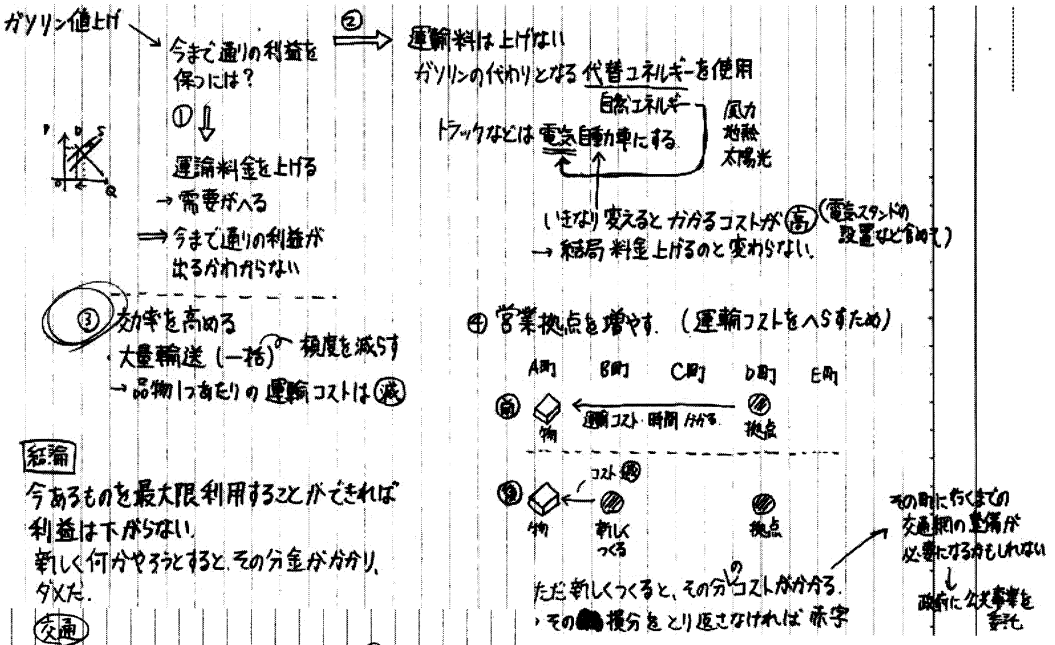
・全国社会科教育学会編『社会科教育のニュー・パースペクティブ―変革と提案―』明治図書,2003 年

・全国社会科教育学会編『社会認識教育の構造改革―ニュー・パースペクティブにもとづく授業開発―』明治図書,2006 年

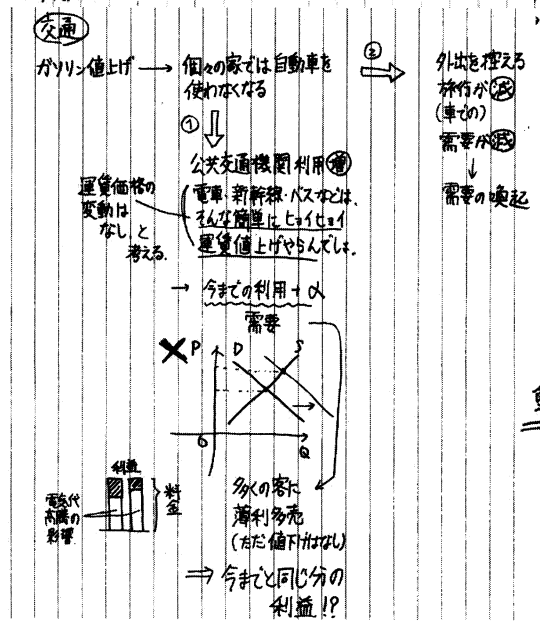
・道田泰司「合理性と批判的思考」,『琉球大学教育学部紀要』 第 61 号,2002 年,pp.99-110.

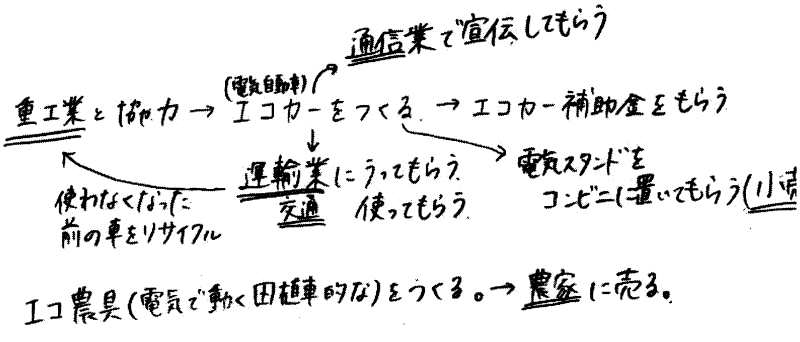
・道田泰司「批判的思考－よりよい思考を求めて－」森敏昭編『おもしろ思考のラボラトリー　－認知心理学を語る３－』北大路書房,2001 年,pp.99-120

・E.B.ｾﾞｯｸﾐｽﾀ,J.E.ｼﾞｮﾝｿﾝ『クリティカルシンキング《入門編》』北大路書房,1996 年



←資料１



←資料２

資料３
↓